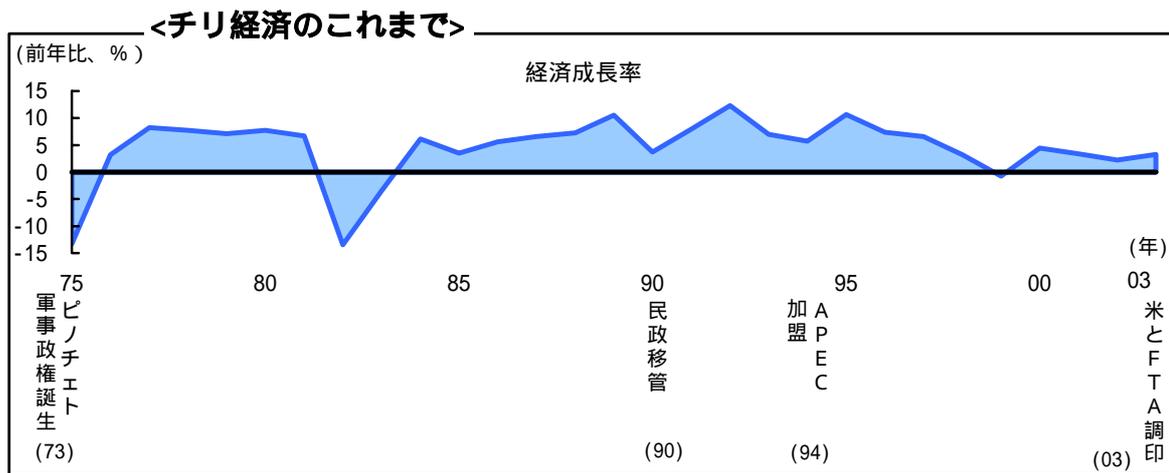


<2003年>

人口	1,512 万人 (日本の約1/8)	財政会計年度	1月～12月
一人当たりGDP	4,767 ドル	為替制度	変動相場制
産業構造(GDP構成比)	1次産業 5.5 % 2次産業 38.0 % 3次産業 56.5 %	通貨	ペソ 1米ドル = 691ペソ
		面積	75.7万km ² (日本の約2倍)



チリの主要経済指標

		92～01年	2002年	2003年	2004年			
					中央銀行	ECLAC	IMF	民間機関
実質GDP	前年比%	5.8	2.2	3.3	4.5	4.5	4.6	実質GDP
鉱工業生産	同上	3.5	2.5	2.7	-	-	-	平均 4.6
消費者物価	同上	7.7	2.5	2.8	1.9	-	1.3	最大 5.0
失業率	%	7.5	9.0	8.5	-	-	-	最小 4.5
経常収支	億米ドル	19.0	5.5		-	-	1.7	(4社)
(GDP比)	%	(2.8)	(0.8)		(2.2)	-	(0.2)	
財政収支	億米ドル	6.6	5.3	6.0	-	-	-	
(GDP比、年度)	%	(0.8)	(0.8)	(0.8)	-	-	-	
政府債務残高	億米ドル	113.8	102.3		-	-	-	
(GDP比、年度末)	%	(18.8)	(15.4)		-	-	-	

(備考) チリ中央銀行、チリ国家統計局、チリ大蔵省、IMF “International Financial Statistics”。見通しの中央銀行 “Economic Expectation Survey” (2004年3月)、IMFは “World Economic Outlook” (2004年4月) ECLAC (国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会)は “Balance Preliminar de las Economías de América Latina y el Caribe, 2003” (2003年12月)。

<2003～2004年の経済>

2003年の経済成長率は、3.3%と引き続き緩やかな回復となった。これは、鉱工業生産や小売、輸出などが堅調に推移したことなどによるものであり、失業率にも改善がみられた。

2004年は、引き続き堅調な成長が続くとみられ、4%半ばの経済成長率が見込まれている(中央銀行見通し4.5%、IMF見通し4.6%、民間機関4社平均見通し4.6%)。これは、世界経済の着実な回復により、輸出が増加することなどによる。下方リスクとしては、物価上昇率が低下傾向にあることや2003年9月以来続いているペソ高の動向が挙げられる。

なお、2004年4月に韓国とのFTAが発効する(2月批准)ほか、中国や日本、インドともFTA締結に向けた話し合いが進められている。